



2年連続全国大会出場の快挙達成!!

水産科3年永田旭君が、関東・東海地区生徒研究発表会で優秀賞に輝き、全国水産・海洋系高等学校生徒研究発表会に出場しました。本校では、昨年度に引き続き2年連続の快挙となります。今回は、その永田君の取り組みを紹介します。

水産科では、養殖・食品製造・環境を三本柱に据えた学習を展開しています。環境を重視するのは、養殖にしる、食の安全にしる、環境の保全は避けて通れない課題であるという認識からです。本校が環境省と協力して行っているミヤコタナゴの保護活動もその一環としての取り組みです。水産科の授業では、生徒が自由にテーマを設定して取り組む「課題研究」という科目がありますが、永田君は、その課題研究でイシガイ類という淡水にすむ二枚貝の保護活動に取り組みました。日本に棲むイシガイ類は30種ほどに分類され、中にはミヤコタナゴの産卵に関係するマツサカガイや大きさが20cmにもなるドブガイなどがあり、絶滅が危惧される種もあります。

永田君は、中学生の頃から淡水二枚貝に興味を持ち、独学で研究してきました。本校入学後は、特に栃木県北部(那須・大田原地区)のイシガイ類についてその生態調査と保護活動を研究テーマとして取り組んできました。永田君は、県北地区に生息するイシガイ類の保護が、周辺の環境保全につながるとして地元の環境保護団体などと連携した活動を行っています。その成果を、関東・東海地区生徒研究発表会で発表したところ優秀賞(2位)に輝き、全国大会出場を決めました。全国大会は、昨年12月15日に静岡県立焼津水産高等学校を主会場として開催されました。当日は、コロナウイルス感染対策のため永田君は動画発表で参加し、見事奨励賞に輝きました。評価されたのは、地元自治体や環境保護団体と連携した活動が地域貢献にもつながっているという点でした。今回の成果を励みにさらに活動を進めてほしいと思います。

専門学科の課題研究は、ともすれば地域社会に貢献することを目的とした実用的な研究になりがちですが、本校では永田君のように基礎的な研究に取り組んでいる生徒もたくさんいます。従来の常識にとらわれない自由な発想で、独自の研究ができることが水産科の魅力の一つです。

【フォトギャラリー】永田君の研究から



ヤマメに寄生する幼生(エラの白い点)



地元自治会との打ち合わせ風景



活動を紹介する新聞記事